

富山市のSDGs普及展開等に関する取組状況について (令和6年度下半期及び令和7年度上半期)

市では、平成30年6月に、国からSDGs未来都市に選定されて以降、これまで「知る」、「理解する」、「実践する」の3つの区分で、普及の取組を展開してきている。

令和5年度から「より理解を深める」、「実践する」の内容に重点を置き、特に、中小企業や小中学生、ユース世代向けの取組拡大を図っている。

1. SDGsを「知る」

(1)新聞紙面や専用ウェブサイト等を活用した情報発信(継続)

北日本新聞の朝刊を活用し、「富山市SDGsマンスリーニュース」と題して、市内の企業・団体等の取組事例やニュースを紹介した(R6.9月からR7.3月にかけて月1回)。※参考資料1参照

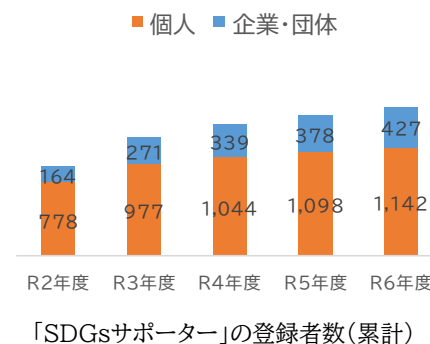
また、専用ウェブサイト等を通じて、「富山市SDGsサポーター登録制度」の周知を行った。



新聞での事例紹介



専用ウェブサイト



2. SDGsを「理解する」・「実践する」

(1)「(企業・学生向け)SDGs推進コミュニケーター」養成講座の開催(R5、R6)

市では、令和2年度からSDGsを職場や地域等で広める人材を養成するため、「SDGs推進コミュニケーター養成講座」を開催しており、令和6年度は、市内だけでなく富山広域連携中枢都市圏に在住か通勤・通学している方を対象とし、開催した(R6.10.6)。※R6年度:11人認定

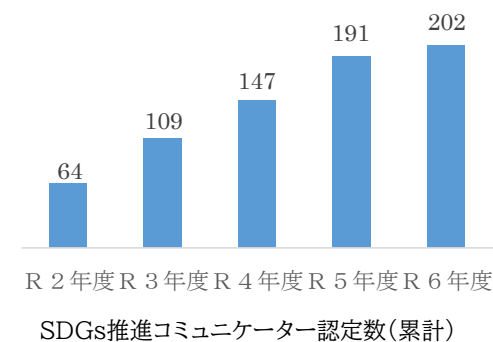
企業向けの講座では、市とSDGsの推進に関する包括連携協定を締結する三井住友海上火災保険㈱が講師を務め、参加企業が自社の取組を数値化し、SDGsを進める上での強み・弱みを分析した後、今後の取組を検討するワークショップを行った。



講座開催時の様子(まちなか総合ケアセンター)



認定証



(2)富山市SDGsサポーター交流会(SDGsトーク)」の開催(R6新規)

SDGsへの関心を高く持つ、SDGsサポーター及びSDGs推進コミュニケーターが、対話型コミュニケーションツール「SDGsトーク」を使って、SDGsへの理解を深め、話し合う交流会を開催した。(R6.12.16)

講師:寺島義智(未来創造サポート)※参加者数10人



(3)「富山市SDGsアクションミーティング」の開催(継続)

SDGsサポーターや推進コミュニケーターなど、SDGsへの関心が高い方を対象に、特定のゴール毎に関連したテーマを設定し、現場見学や課題、解決方法を深掘りする対話会を開催した。

令和6年度は、「気候変動で変化する富山湾の生き物～私たちにできること～」をテーマに地域課題の解決に向けた取組について、SDGsの観点から話し合いをした。

(テーマ)

R7.2.12:ゴール14「海の豊かさを守ろう」講師:稲村修(元魚津水族館館長)※参加者数12人

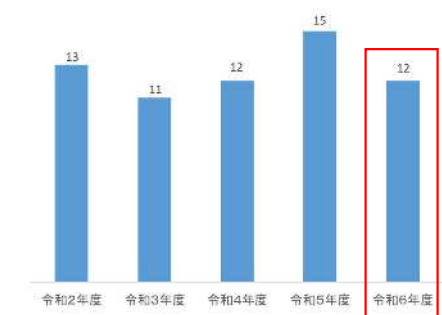


ミーティング開催時の様子

(4)富山市SDGs推進認定事業補助金による支援(継続)

SDGsサポーター(企業・団体)が実施する、SDGs普及啓発イベントや啓発ツールの作成事業などに対して、補助金による支援(補助率1/2・上限10万円)を行った。

※R6年度:12事業に支援



補助金の交付件数

【R6支援例】

事業名:映画「夢みる給食」キャラバン上映会(実施企業:(一社) 環境市民プラットフォームとやま)

ドキュメンタリー映画「夢みる給食」の上映会とトークイベントを開催し、有機野菜を取り入れることによって学校給食を通じたこどもたちの健康づくりや地域循環型農業(有機農業)を考えるきっかけを醸成した。



補助事業の開催時の様子

(5)「富山市SDGsウィーク」の開催(R7.2.8～2.17)(継続)

市民・企業等へのSDGsの普及啓発と、ステークホルダーとの連携の場の創出を目的として、6回目となる「富山市SDGsウィーク(全10日間)」を実施した。

令和6年度は、健康や教育、防災、農業、環境分野に関するセミナーや講演会のほか、SDGsシネマの上映会など、様々なイベントを毎日開催した。

※全24事業(市主催17事業、SDGsサポーター企業主催7事業)を実施

①「富山市SDGsユースミーティング2025」(R7.2.9)

SDGsウィークのイベントとして、高校生と大学生が参加した「ユースミーティング」では、SDGsの課題解決に取り組む若者が、地域活性化やまちづくりに関する各々の取組内容をテーマに話し合い、悩みやアドバイスを送り合うなど交流を深めた。

※参加人数:16人



②「富山市SDGs推進フォーラム」(R7.2.16)※フォーラム参加人数:約 500 人

SDGsウィークの後半には、メインイベントとして、伊沢拓司氏をゲストに迎え、トークやパネルディスカッションを行うフォーラムを開催した。

(プログラム構成)

- ・オープニングミニ講演(深井宣光氏)
- ・SDGs 取組み発表((一社)Teena Light、堀川小学校)
- ・クロストーク(伊沢拓司氏×藤井市長)



③「SDGs体験ワークショップ」の開催 ※参加延べ人数:796人

フォーラムの開催前には、会場の中ホール内において、SDGsサポーターの企業や大学等と連携し、市民参加型のSDGs体験ワークショップ(全8ブース)を開催した。

野菜摂取量を測定する健康測定コーナー、バナナペーパー工作体験のほか、フラワーポットの花育体験、大学生が考案した「SDGsすごろく」などを実施した。



健康測定コーナー



フラワーポット花育体験

(6)小中学校へのSDGs活動支援メニューの展開(R6～)

小中学校でのSDGsに関する学びの機会や活動の実践をより促すため、これまで企業が独自に発信していた出張授業等の情報(全18メニュー)を一元化し、学校に情報提供を開始したところ、令和6年度は以下の5校で支援メニューを活用した。

No	R6	内容(協力企業等)	関連するゴール
1	山室中部小	バナナペーパーで学ぶ SDGs ワークショップ(なかたに印刷)	1 貧困, 12 持続可能な消費, 15 陸の豊かさ
2	水橋西部小	障がい者スポーツ体験・講演会(あいおいニッセイ同和損害保険)	3 健康と福祉, 4 質の高い教育, 10 人や国との公平な開発
3	上滝小	エコフラポットで SDGs を学ぶワークショップ(花・sou)	12 持続可能な消費, 14 海の豊かさ, 15 陸の豊かさ
4	鵜坂小	小学生向け防災ワークショップ(あいおいニッセイ同和損害保険)	6 安全な水と衛生, 11 持続可能な都市とコミュニティ, 13 気候変動
5	速星小	水から学ぶ講習会(LIXIL)	6 安全な水と衛生, 11 持続可能な都市とコミュニティ

(7)富山市版SDGs学習ゲームを活用した普及展開(R7 新規)

令和6年度、SDGs普及展開用の新たなツールとして、ワークショップの開催等を通じて制作した富山市オリジナル版のSDGs学習ゲームが令和7年2月に完成した。

この学習ゲームは、学校の授業や企業研修などで活用してもらうため、希望する団体等に借出をするとともに、市職員による学習ゲームを活用した出前講座を実施している。

また、学習ゲームの学校現場での周知及び活用展開を図るため、市内小中学校5校において教職員を対象とした「SDGs公開モデル授業」や、富山大学・富山国際大学・富山国際大学付属高校において、「SDGs特別授業」を実施している。

また、令和7年9月には、学校や地域等で富山市版SDGs学習ゲームを用いた活動ができるように公認ファシリテータの養成講座を実施した。

※R7 年度出前講座申込 14件、学習ゲーム貸出 4 件



公開授業の様子



富山市版 SDGs 学習ゲームのカード



(8)富山市SDGs推進認定事業補助金の拡充(R7 新規)

SDGsについて実効性のある取組みの実践に繋げていくため、地域が主体又は複数事業者等の連携によるSDGsを原動力とした「持続可能な地域づくり」モデル事業に対して支援を行うことを目的として、「SDGs推進認定事業補助金」を拡充し、新たに補助メニューを設けた。

3. その他のSDGsに関連した取組

(1)「学校給食有機の日」の実施(R6)

令和6年12月8日の「有機農業の日」に合わせ、大沢野地域で栽培された有機米を学校給食(市内の小学校63校、中学校25校、幼稚園3園)に使用し、児童等に対し、生物多様性の保全や地球温暖化の防止など、環境に優しい有機農業に対する理解の醸成を計った。



給食時の児童への有機農業の紹介と、生産者との意見交換



有機米(有機コシヒカリ)の学校給食

(2)「とやましデコ活キャンペーン」の実施(R6)

温室効果ガス削減に取り組むため、「デコ活(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動の愛称)」に関する行動やクイズでポイントを貯め、景品抽選に応募できる、市公式 LINE を活用したポイントキャンペーンを実施した。



(3)小学生向けの海洋ごみの対策を学ぶ特別授業の展開(継続)

SDGsゴール14「海洋保全」に関連して、小学生に海洋ごみ問題に関心を持ってもらうため、プラスチックごみの海への流出を防ぐことを目的に、がめ川に設置しているオイルフェンスの見学や海水浴場でのマイクロプラスチック等のごみ拾いを行う特別授業を実施した。

※参加学校:神保小学校・山田小学校・草島小学校・杉原小学校・岩瀬小学校 3・4・5年生



(4)中小企業向け「2050 カーボンニュートラル体験型セミナー」の開催及び中小企業の脱炭素化に向けた伴走支援(継続)

市内の中小企業等を対象に、脱炭素化に向けた取組を推進するため、カードゲーム「2050カーボンニュートラル」の体験や、県内企業の省エネに関する取組事例の紹介、参加企業同士が意見交換を行うセミナーを開催した(R7.8.8)。

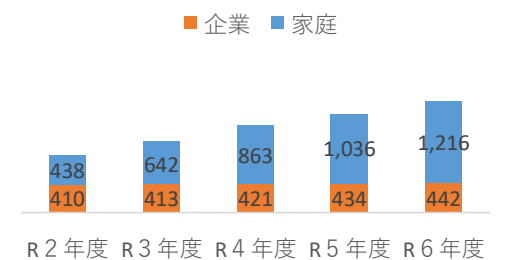
※セミナー参加者数:企業・団体15社 19 人

また、今後は、セミナーの参加企業に対して、脱炭素化に向けた「省エネルギー診断」や、「脱炭素経営計画の策定」などの支援を実施する。

※伴走支援予定数5社



セミナー開催時の様子

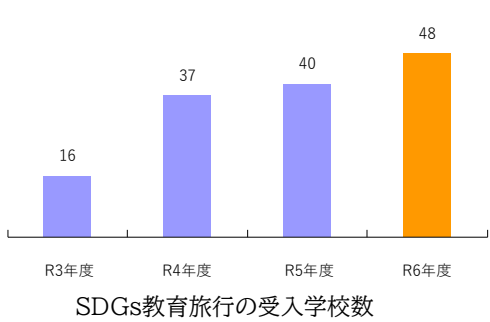


「チームとやまし」のチーム登録数(累計)

(5)富山市で学ぶ「SDGs修学旅行」の受入れ(R3～)

市のコンパクトなまちづくりや歴史、文化など、SDGsをテーマに地域の課題解決の手法を考える、富山市独自の13のプログラムを教育旅行用に開発し、県外から「探求型修学旅行」として多くの学校を受け入れている。

※R6年度:受入校(48校)



(6)IC カード「アオハルライドパス」の配布(R7 新規)

公共交通の重要性を育む「のりもの語り教育」で学んだ取組を実践し、公共交通の利用促進とシビックプライドの醸成を図るため、小学6年生に交通ICカード「アオハルライドパス」を配布する。



(7)お得におでかけ MaaS 事業の実施(R7 新規)

公共交通の活性化を図るため、路面電車南北接続開業から5周年の記念事業として、路面電車をはじめとする公共交通をお得に利用できるデジタルチケット「とやまホリデーパス」を販売し、その販売促進プロモーションを行う。



(8)SDGsに関するスクールミーティングの開催(R6～)

富山東高校の生徒を対象に、SDGsに関するスクールミーティングを実施し、藤井市長による「SDGs未来都市」に関する取組紹介や、生徒との意見交換会を開催した。

生徒からは、SDGs の目標で市として力を入れている取組や達成が困難なものについて市長に質問があった。

※参加人数:236人



(9)富山県パートナーシップ宣誓制度との連携について(R5～)

富山県が、令和5年3月から導入した「パートナーシップ宣誓制度」について、市においても、県交付の宣誓書受領証の提示を受けることで、公営住宅への入居申込や医療機関での面会、病状説明の際に、家族や親族と同様の対応を行っている。

※宣誓件数 県内88件(令和7年9月24日時点)



(10)スマートシティ実現に向けた取組(R5～)

産学官が連携して地域課題の解決に繋がる新規事業やビジネスモデルを創出する「富山市スマートシティ推進プラットフォーム」を設立した(令和5年11月)。

同プラットフォームの総会やマッチングイベントの開催、会員企業・団体を対象に、富山市版スマートシティの実現に資する実証事業に対する補助事業を実施している。

※会員数264社 (令和7年9月末現在)

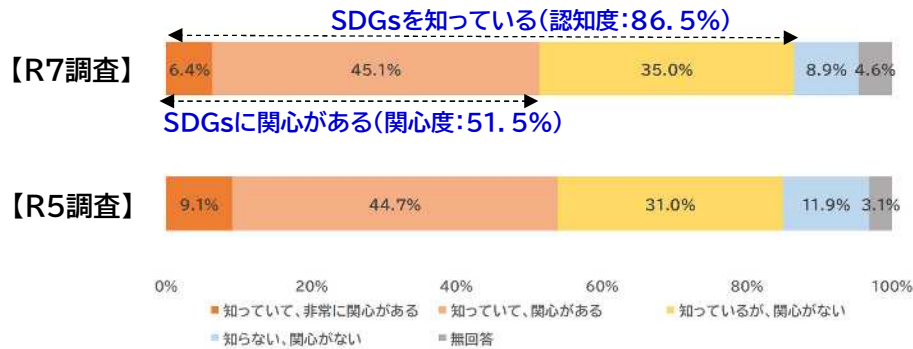


4. 各種のアンケート調査結果

(1)富山市民意識調査結果(R7実施)

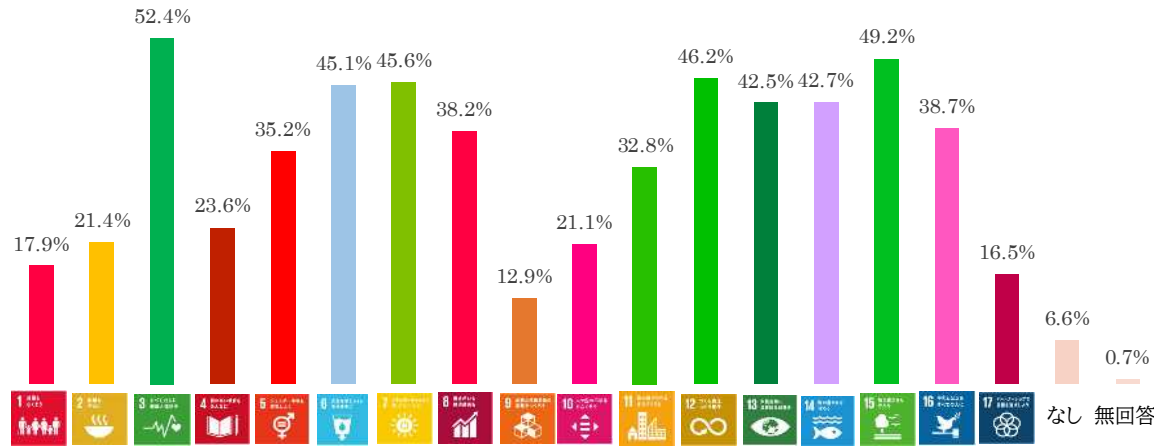
① SDGsの認知度・関心度

令和7年度に実施した市民意識調査結果によると、SDGsの認知度を示す「SDGsを知っている」人の割合は約87%となり、前回調査時(R5)の約85%から微増した。また、「SDGsに関心がある」人の割合は約52%であり、市民の半数の方が前回調査時と同様に関心を持っている。



② SDGsの17のゴールのうち意識して「行動」しているゴール

SDGsに関心がある方に、意識して「行動」しているゴールを調査したところ、半数以上が「ゴール3：健康と福祉(52.4%)」を意識して行動していると回答した。

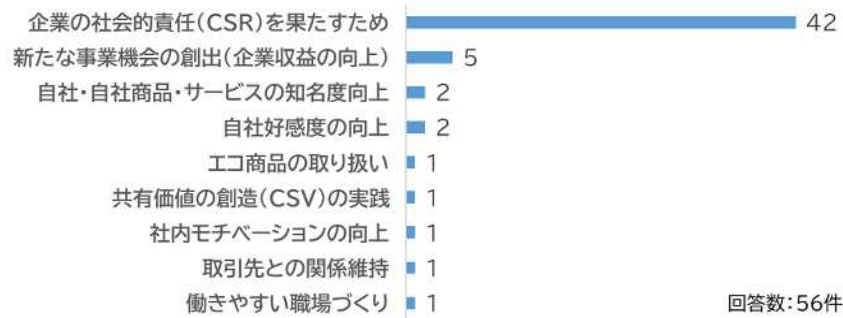


(2)企業向けSDGsアンケート調査(R6実施) ※再掲

令和6年8月に、市のSDGsサポーターに登録している企業(約 300 社)を対象に、SDGsに関する取組状況やニーズ等を把握することを目的に、アンケート調査を実施した。

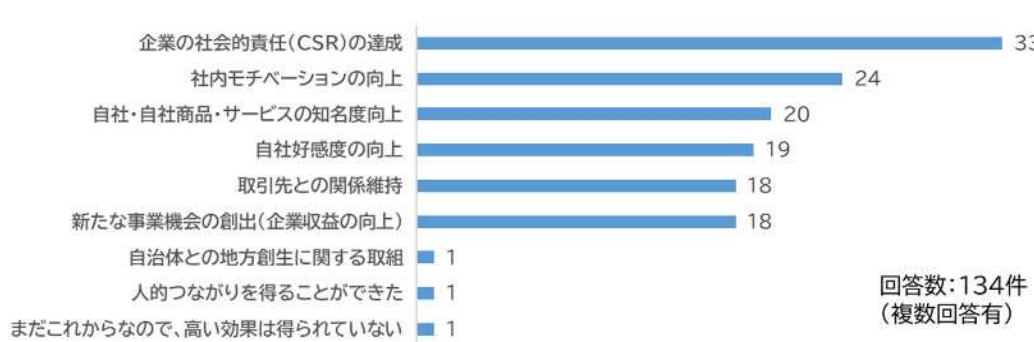
① 企業がSDGsに取り組んでいる主な目的

回答企業(56社)のうち、42社が「企業の社会的責任を果たすため」と回答した。また、5社が「新たな事業機会の創出(企業収益の向上)」を、SDGsの主な目的として回答した。



② 企業がSDGsに取り組んで得られた効果・メリット

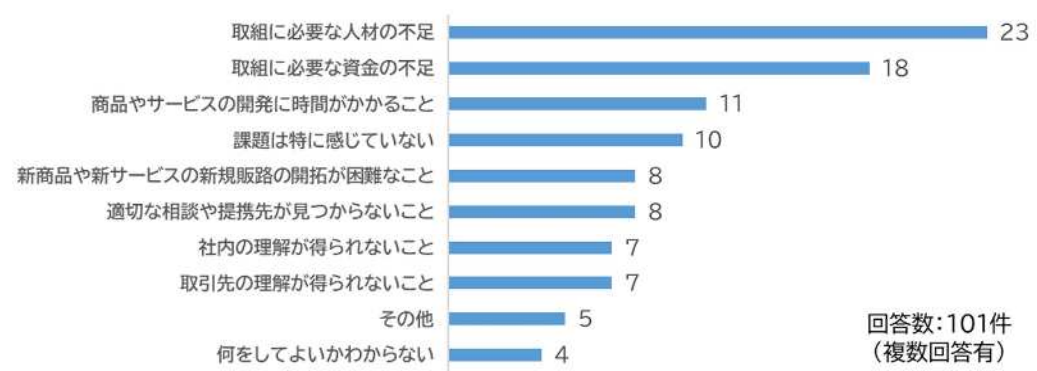
回答企業(56社)のうち、40社が「SDGsに取り組む効果・メリットがある」と回答し、その内容として、「企業の社会的責任の達成」に次いで、「社内モチベーションの向上」を挙げた。



回答数:134件
(複数回答有)

③ 企業がSDGsに取り組むに当たっての課題

課題として、「人材及び資金の不足」と回答した企業が多かった。



回答数:101件
(複数回答有)

④ 本市のSDGsに対する取組への評価

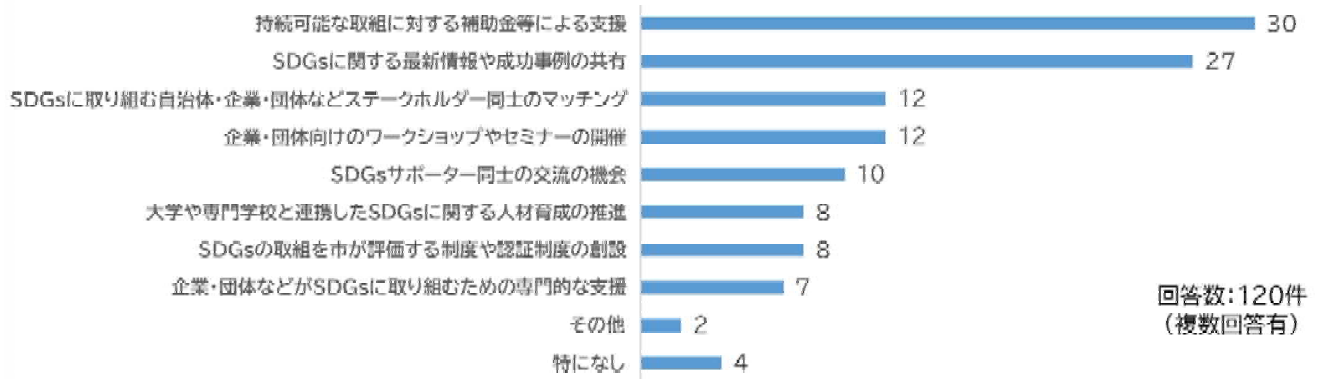
回答企業(56社)のうち、「ある程度評価している」が28社(50%)、「非常に評価している」が21社(37.5%)となった。



回答数:56件

⑤ SDGs達成に向けた取組のサポートとして本市に求めること

「補助金等による支援」や「SDGsに関する最新情報や成功事例の共有」を求める回答が多かった。



回答数:120件
(複数回答有)

5. その他（本会議の委員から出された意見への取組状況）

分野	委員からの意見（年度）	市の取組状況	関連部署
公共調達	公共調達のプロセスに、SDGs の概念を取り入れてはどうか(R 元)。	3年度から「建設工事競争入札参加資格審査」項目において、SDGs サポーター登録を加点する運用を開始した。	財務部
観光 (教育)	SDGs の認知度の高さを活かし、近隣県から修学旅行や社会科見学を呼び込むのは有効ではないか(R4)。	3年度から実施している「SDGs 教育旅行」について、旅行会社等に周知を図り、実施数を拡大している。	商工労働部
学校教育	小中高生が SDGs を体験できる情報について、学校への提示や仲介はできないか(R4)。	6年度から、企業等が小中学生向けに実施している、SDGs 出張授業について、学校への情報提供等を開始した。	企画管理部 教育委員会
社会 (子育て)	市の子育て支援について、更なる PR をすべき(R4)。	5年6月に「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行い、「こどもまんなか社会」の実現に向け、子育てに関する情報などを広く発信している。	こども 家庭部
市民生活	市民生活において実践できる SDGs の行動について、分かりやすく周知を図るべき(R5)。	5年度のフォーラムテーマを「スポーツ」とし、市民が気軽に取り組めるスポーツと SDGs について、理解を深めた。	企画管理部 市民生活部
中小企業 支援	中小企業が SDGs をコストではなく、ビジネスチャンスと捉えるような啓発をすべき(R5)。	中小企業向けセミナー(R5)や、SDGs に先進的に取り組む企業を訪問するミートアップツアー(R6)を開催した。	企画管理部
社会 (教育)	子どもや親が気軽に取り組むことが出来る SDGs 教育を進めるべき(R5)。	親子で学び、体験できる SDGs、環境分野のワークショップを企画、実施した。	企画管理部 環境部
環境 (資源循環)	サーキュラーエコノミーの観点も取り入れたまちづくりを行う必要があるのではないかと(R5)。	資源循環の取組として、6年度からプラスチック資源一括回収を開始したほか、生ごみの堆肥化による資源循環の新たな仕組みづくりを試行する。	環境部
新 社会 (教育)	高校生が、まちづくりや SDGs に関する自身の見解を、デジタル技術を活用し、匿名性を担保する形で、発信できるような場を設けてはどうか(R6)。	高校生に限定していないが、令和7年10月に、次期総合計画の策定に向けて広く意見・アイデアを募集するため、オンライン上で意見を投稿し、他の人の投稿に「共感」やコメントができる仕組みを構築した。	企画管理部
新 市民生活	市民がSDGsの推進のために、どのように自らの生活改善ができるのか、行政が何らかの形で示してほしい(R6)。	「広報とやま令和7年1月5日号」に SDGs に関する特集ページを設け、市民一人一人の行動を促すため、「富山市SDGsサポーター」の取組について紹介した。	企画管理部